

藤沢駅周辺地区再整備構想検討委員会
第10回 藤沢駅南北まちづくり市民検討部会

日時：2012年2月21日（火）午前10時00分～
場所：藤沢市役所 職員会館3階 第3会議室

1. 開 会
2. 部会長挨拶
3. 議 事
 - ・にぎわい・交流のまちづくりについて
4. そ の 他
5. 閉 会

< 議事要旨 >

- 部会長 それでは次第の3. 議事に入ります。事務局に説明をお願いします。
- 事務局 < 資料説明 >
- A 委員 北口通りエリアについて、まちづくりルールを24年度一杯かけてまとめるのでは遅すぎる。24年度後半からは建築が始まっているものもある。先にそういうことが始まっている中で、後からまちづくりルールが出てきても意味がない。従って、場所によっては、もう少しこのスケジュールを見直してもらいたい。
- B 委員 関連して、北口通り線の性格をどう考えているのか。たまたま、遊行通りの地権者の方が、遊行通りと北口通りの交差する部分に子供のための住宅を建てる計画が出ている。既に2軒あり、北口通り沿いにしもた屋が何軒も並んでしまうのはどうなのか。まちづくりとしては、店舗中心の街にしていく計画が必要だと思う。
- 部会長 通りの性格については今日の資料の3ページにある程度整理されている。それで、一戸建て住宅が建つことを防げるか、ということ、その方法があるかどうかということになる。強制でなく誘導できる手段があるか、というと極めて難しい。制度的に何かを適用したとしても、それが社会的支持を得られるか、という問題もある。市の方はどのような考えか。
- 事務局 北口の事業開始に当たり用地買収方式でスタートしているので、当然、買収に応じていただいた方々の意向は尊重しなければならない。意向が示された段階で、行政指導の範囲でご協力をいただけるようお願いはするのだが、インセンティブとして働く材料は、買収交渉の中で使い切ってしまうというのが実情である。
- また、北口通り線の沿道については、誘導方針を早急に打ち出さなければならないという意識は持っている。
- 部会長 公的な意思として出ることが重要です。このペーパーが出ることも一つの公的な意思の表明になる。
- 事務局 もうちょっと踏み込んで、地区計画までにはいかなくとも、たとえばまちづくりの基

本的な方針、ルールのようなものを打ち出していきたい。これまでの用地交渉の中で地権者の顔は見えていますので、地区計画までいかずとも、何らかの合意は取り付けていきたい。

部会長 A 委員のご意見もあるし、五月雨的でもいいからやれることからできるだけやって行った方がいい。きれいに全体をセットしていくのではなく、できることから手をつけていくのがいいのではないかと。

C 委員 駅の問題というのが、どのくらいのスピードで進んでいくか、相手のいることから難しいと思うが、概ねでもいいので知ることではできないか。

事務局 数値的なこともきちんと整理した上で、街の皆さんが何を考え、何をしようとしているかが鉄道事業者と共有できた時点で、次の段階に進むものと思うし、鉄道事業者も動き始めてくると思う。

新市長の意向はまだつかめていないが、着任後にこれまでの積み重ねや議会の動きなどもレクチャーする中で、新市長の方針が出されるものと思う。

部会長 駅と駅周辺の再開発などは相当お金もかかるし、これらはちょっとじっくりいかなければならない。それに対して、時間的にはずれが生ずるかもしれないが北口通り線や各商店街のアクションなどはやれるところからどんどん可能性を広げていくべきだろう。

事務局 本日のこの資料には出ていないが、親委員会の中では重点プロジェクトというものが挙げている。現実には投資を行っている北口通りなどについては、当然優先度を上げて駅周辺全体をリードしていくような形になっていくと思う。

D 委員 市民検討部会としては今日で終わりだが、次年度以降は10ページのそれぞれの検討の中に我々が参画していくイメージか。

事務局 政権交代も多少影響してくるのでイメージとして固めたものとはならないが、既存の南北協議会と、商工会議所にも特別委員会ができていますので、その場を活用して24年度は活動していくようなイメージでいる。

D 委員 自分は鵜沼地区地域経営会議が選出母体だが、そちらの存続も必要である。今後、すり合わせの場がどうなるのだろうか。

事務局 検討の流れが止まることは決していない。この結果をそれぞれの選出母体に持ち帰っていただく中で理解を深めていただきたいと思います。すり合わせについては検討する。

A 委員 3ページで各通りの取り組みが出ているが、たとえば遊行通りには歩専道化のための整理という表現がある。6ページでは一方通行化や歩専道化への言及がある。こうしたことの前提として、エリア全体の交通ネットワークの整理がまず必要だし、地元だけでは出せない話であり、誰が主体となるかがわからない。

パール銀座通りへの言及があるが、ここへはバリアフリーの面でアプローチに問題がある。そこの解決もしなければならぬと思うが、取り組み体制等も含め、どのように考えているか。

事務局 交通ネットワークとバリアフリーについての整理は、市として素案を作るべきと考えている。

一方通行化や歩専道化にしても、絶対に必要なインフラ総量というものがあって、本地

区でプラスになるインフラは今のところ北口通り線 1 本だけに近い。それをどう使って
いくか、バスを通すか通さないか、そうしたことも含め、北口南口全体の交通計画の中
で考えていきたい。また東西線が現在新地の中に突っ込んだ形で途切れている。その延
長をどうするか。また鵠沼奥田線の事業見通しをどうするかということを含めて、交通
計画を考える。またフットパス、通り同士を横につなぐ路地のような界隈性のあるもの
をどう位置づけていくかも課題ととらえている。

いずれにせよ北口通り線ができることによってどう交通を回していくかを考える端
緒としたい。

E 委員 道路空間の使い方、というのがキーになっていて、その意味で完全な案を作ることは
なかなか大変だが、個別の書き方ではなく、全体の整理の中で方向性を出しておいた方
がいい。それが前提となるのでそのことが少し気になる。

全体として言いたいことは一通り入っているが、もう少し整理をした方がわかりやす
い。たとえば 1 ページの図にしても、この図だけではちょっとわかりにくい。

アクションプランについても、これまでの話の中で出てきたことがすべて拾われてい
るわけではない。後半の部分でももう少しわかりやすく整理されているとよい。

緑化やエリアマネジメントについても、24 年度以降の作業に向けて、頭出しをもう少
ししておいた方がいい。

「核」の話は、駅の側だけのことではないのではと思う。街の側から核に対して言え
ることがあるわけで、その部分も書いてあった方がいい。

C 委員 南口の広場と現在のデッキは、あのままでいい、ということになるのか。

事務局 駅広は再編した方がいいということで検討の遡上に乗っているが、駅とセットのもので
すので、同時並行で検討していきたい。

C 委員 それは 10 ページの仕分けの中では「駅街区まちづくり検討」の中で行うのか。

事務局 駅舎と駅広はセットで、また周辺の交通ネットワークも含めてきれいに整理してい
きたいと思っている。

部会長 核については以前の資料で書かれていたものと読み合わせをすればわかるのかな。エ
リマネは抽象的に書いてもあまり意味がないので、もうちょっと書き込みが必要なな
という点についてはどうでしょうか。

E 委員 南北協議会でも議論を始めようとしている。そこにうまくつなぐというか、その動きを
オーソライズ、バックアップしていく、ということができたらいいのではないかと。

部会長 二つのアプローチがあると思う。一つは南北協議会の中で議論して、自分たちの方向
性を出していく、と同時に個別アクションを起こしていく、たとえばパール銀座をなん
とか制度的なことをクリアして育てていくというような個別テーマの取り組みから育
っていく。両方あって、相互に刺激し合いながら進んでいく、ということを書いてほ
しい。

緑化についても一般的に書くとインパクトがないので書ききれなかったのだと思う。
特にここは重点的に、とか一般的にこういう仕掛けだとだんだんうまくいくよ、とい
うようなことを示したらどうか。

- E 委員 確かに新たな緑地を生み出すというのは難しい。しかし前段にそういうメニューが出てきており、出てきているからにはもう少し手がかりがほしい。
- 事務局 基盤がどうしても弱いので、全体として交通問題に取り組む中で、その過程で空間が生まれてくる可能性はある。緑の基本計画を策定し、その実施計画の作業中ですので、そちらとタイアップする中で方向性は打ち出していきたい。
- 部会長 抽象的な緑化率の話ではなく、この通りはここまでできているのでここをつなごうとか、この開発の時には相当緑のボリュームを生み出せるとか、そういう具体的なねらいをここには書いていきたい。
- D 委員 橋通りは昨年 10 月に解散してしまっているの、将来的にこの通りの名前をこのような形で残すのはどうであろうか。
- F 委員 街路灯の維持について、これは商店街の持ち物なので解散してしまうと撤去が原則となる。そうすると商店街としての体をなさなくなってしまうので、何とか残す方向で調整しており、オクスモールとランブルの一体化など、何とか形を残したいと動いている。
- A 委員 橋通りエリアやランブル・オクスモールを含めた界限、とか。
- B 委員 州鼻通りは一度解散して、その後再興した。
- 部会長 解散の理由は何ですか。
- F 委員 会員が減ってしまって、何をやるにしても人が集まらない、ということが原因だったと聞いている。
- D 委員 あともう 1 点。6 ページの自転車・歩行者・自動車の棲み分けですが、一消費者とすると、自転車でお店の前まで行きたい。駐輪場に止めてそこから歩いていくのであれば、駐輪場はもっと駅近くにあった方がよいと思う。またフリンジパーキングだが、将来的に一般車はここより中には入れないことを考えているのか。
- 事務局 駅直近は歩行者中心とし、通勤通学の方はこの駐輪場に止めていただく。また一般車についてはフリンジパーキングに止めてそこから先は街を歩いていただくイメージでいる。
- 商業施設の直近まで買い物に行く自転車につきましては、通りや大規模商業施設の付置義務の中で対応することで整理している。
- また、たとえば双方向交通を一方通行にすれば半断面空くので、そこを歩行と駐輪スペースに、また空き店舗を活用した駐輪場なども商店街の中で設置していただくなども案としてはある。
- C 委員 賑わいという点では今の話でいいと思うが、生活者の視点でいうと、高齢者の送迎の車が駅前には多いのが実態だが、それを排除してよいのか。
- 事務局 すべて排除するという考えではない。たとえば双方向を一方通行にして、タッチはしにくくなるが、高齢者などの乗降スペースを生み出すなど、駅広にも当然そうしたスペースは作るが、基本は歩行者中心のエリアにしていきたい、という考えである。自転車も、そのエリアで排除するのではなく、エリア内は押していただくことをイメージしている。

E 委員 自転車について、半径 200～300mを押し歩くという考えはちょっと古いかな、という感じがする。無論歩車の棲み分けは非常に重要だが、駅周辺は押し歩く、というのは自転車の特性を理解していない考え方ではないか。

危険排除のためにそういう考え方もやむなしという部分もあるが、自転車をその距離を押しのまま歩くというのは現実的ではない。逆に 200～300mという距離は非常に自転車に適した距離。そういう意味では交通全体を考えるとときに自転車政策というものはよく考えるべきである。

部会長 この6ページについては、今の倉田委員の意見のようにアイデアとしては相当大きなクエスチョンマークが付く、ちょっと問題があると思う。自転車のあり方についてはもう少し柔軟な考えであるべきかもしれない。自動車についてのフリンジパーキング主体の考えはこれでいいように思う。

事務局 自転車については通行帯のネットワークがきれいにできれば全然問題ないと思っている。現状の基盤が貧弱な中ですべての道を自転車が走っていい、とは危険で言えない。自転車ネットワークができれば倉田先生のいわれるようなことも現実的だが、そのために用地買収はできない、車道復員を奪って用地を確保するしかないだろうと思う。

部会長 このペーパーをこのままの内容で報告書としていくのかということがとても気になる。自転車利用者の大きなウエートが、この計画に従って行動するイメージがわからない。ここに止めて、駅まで300mなんて絶対歩きたくないと思う。

事務局 この2月議会に自転車走行環境整備のプランを都市計画課と土木部で報告することになっている。その内容を見た上で、このアイデアがマッチするかどうかを含め、ご指摘の点もふまえて書き方を工夫させていただきたい。

部会長 では、そういう整理をしてほしい。また、先ほど事務局発言にあった、前提がこうなればこのようになる、ということも書き加えてほしい。

3月30日の親委員会までにこのペーパーの内容については事務局と私にお任せください。場合によっては大幅に変わることもあるかもしれない。いずれにせよ結果は皆さんにお知らせする。

では私の意見を言うと、具体的なアクションプランが出てきた。その中で現実に具体化すべきものを打ち出した方がいいと思う。交通処理のあり方を本格的に再検討する、ということが全体に共通する基盤。もう一つはパール銀座通りは素材である。現実に場があるし、皆がもったいないと思っている。制度的に少しハードルはあるが、ここは官民一体で汗をかけば、あそこの位置づけを変えることは不可能ではないと私は思う。あそこを街の活性化のオープンカフェ的な場として再構成するきっかけとして集中的に議論するということが、今後すぐに具体化に向けてのアクションとなるのではないか。

もちろん10ページにいろいろやることは書いてあるが、今の二つは即座に手をつけるという書き方をしてほしい。

E 委員 あとは北口通りエリアの話がある。

部会長 その3本柱ですか。それを7ページのあとに1ページ加える。市役所が何に向かって力を出せばいいかという方向を、できるだけ共有するのがいいと思う。

そうやってまず手をつけていく中で、あれもやろう、これもやろう、という展開になっていくだろう。とりまとめは私にお任せいただくこととする。これまで、活発なご議論をありがとうございました。ではこれで閉会といたします。

以 上